

# 横浜市インフルエンザ流行情報 14 号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

インフルエンザ患者報告数が再び増加しています。

## 【概況】

2019 年第 17 週(4 月 22 日～28 日)の定点<sup>※1</sup>あたりの患者報告数は、市全体で **1.96** となっており、第 16 週(4 月 15 日～21 日)と同様、再び患者報告数が増加し、1.00 を上回っている状態で推移しています。

学級閉鎖等は、第 17 週は 5 施設(小学校 4 施設、その他 1 施設)から報告がありました。

お子さんや高齢者の感染予防、各施設での持ち込み防止や感染拡大防止対策を徹底しましょう。

今シーズンの迅速診断キットの結果は、これまで A 型の報告が 99% 以上を占めていましたが、第 8 週あたりから B 型が増加し、第 17 週は A 型 35.5%、B 型 64.5% となり、B 型が多くなっています。

また、今シーズンの市内のウイルス分離・検出状況は、AH1pdm 型、AH3 型が多く、B 型はほとんど分離・検出されませんでした。第 14 週以降は、B 型(ビクトリア系統)が多く分離・検出されています。

インフルエンザ患者報告数が増加しているため、正しい手洗い<sup>※2</sup>等の予防、咳が出る時のマスクの着用及び早期受診などの対策<sup>※3</sup>が重要です。

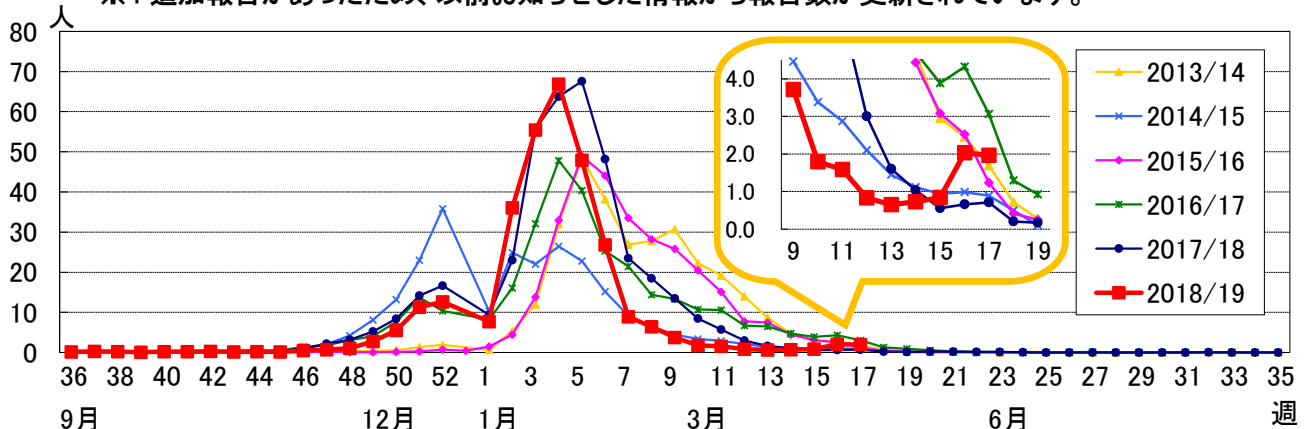
※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 153 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」、チラシ「咳エチケット」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

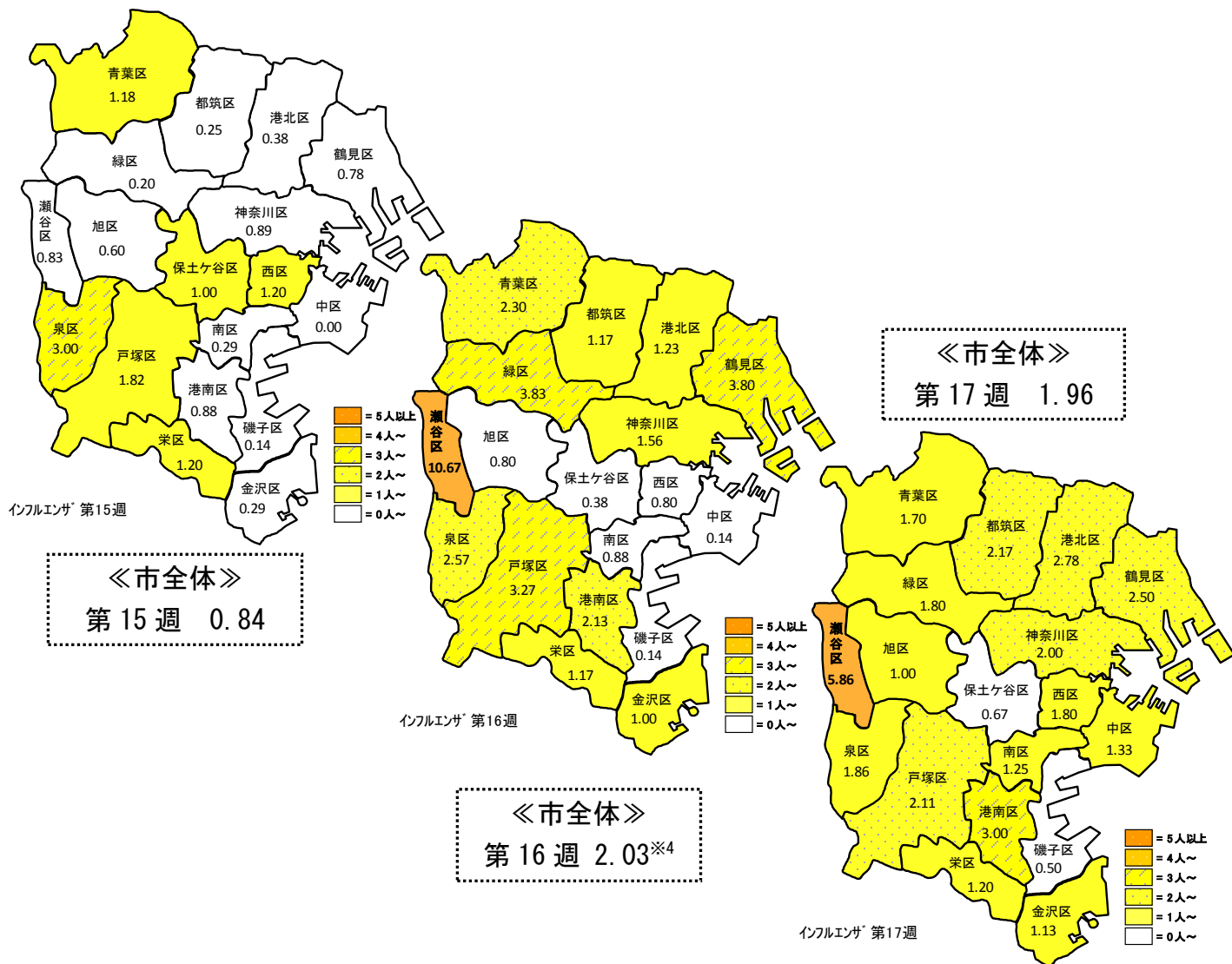
※3 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、第 12 週以降、流行開始の目安となる 1.00 を下回っていましたが、第 16 週(4 月 15 日～21 日)にて 2.03<sup>※4</sup>、第 17 週(4 月 22 日～28 日)で 1.96 となって再び増加し、1.00 を上回った状態で推移しています。

※4 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

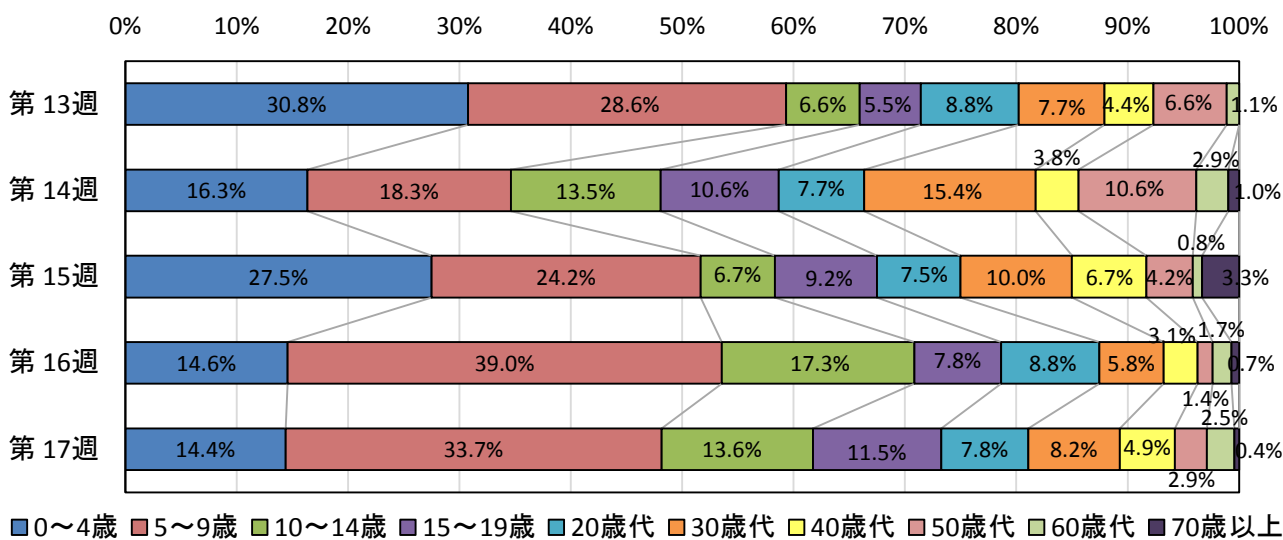


## 2 地図で表した直近3週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

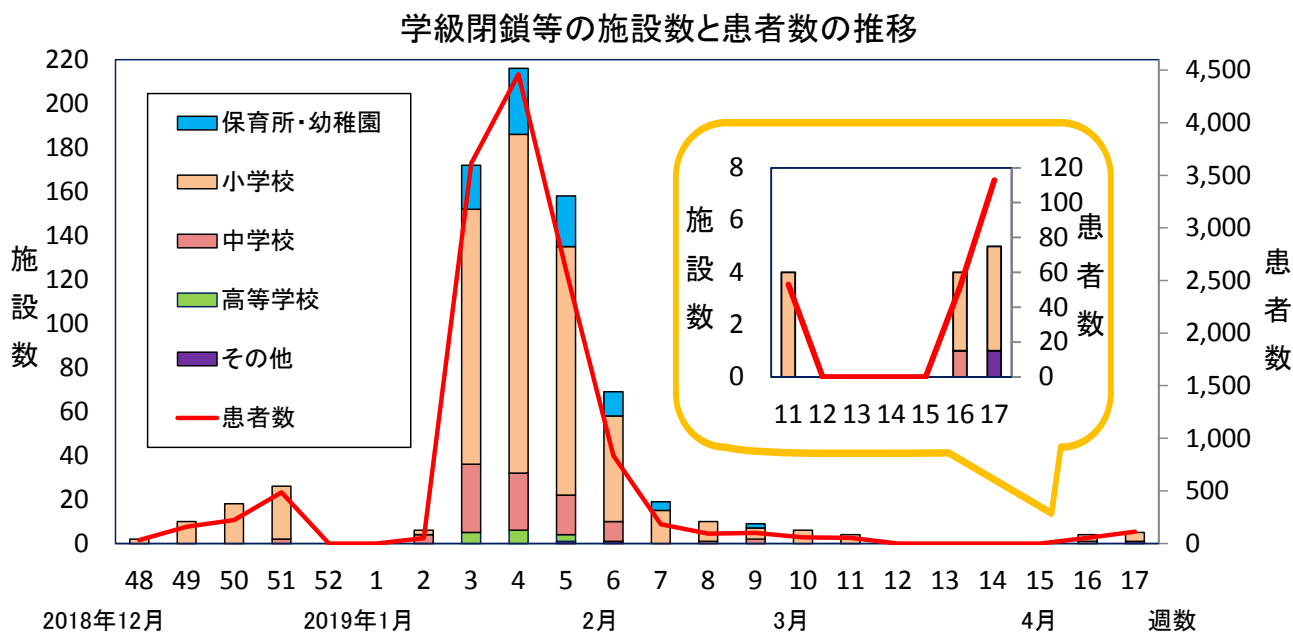


3 年齢層別集計:第17週の患者年齢構成は、5歳未満が14.4%、5歳から10歳未満が33.7%、10歳から15歳未満が13.6%となっており、10歳未満が全体の48.1%、15歳未満が全体の61.7%を占めています。

年齢層別患者割合

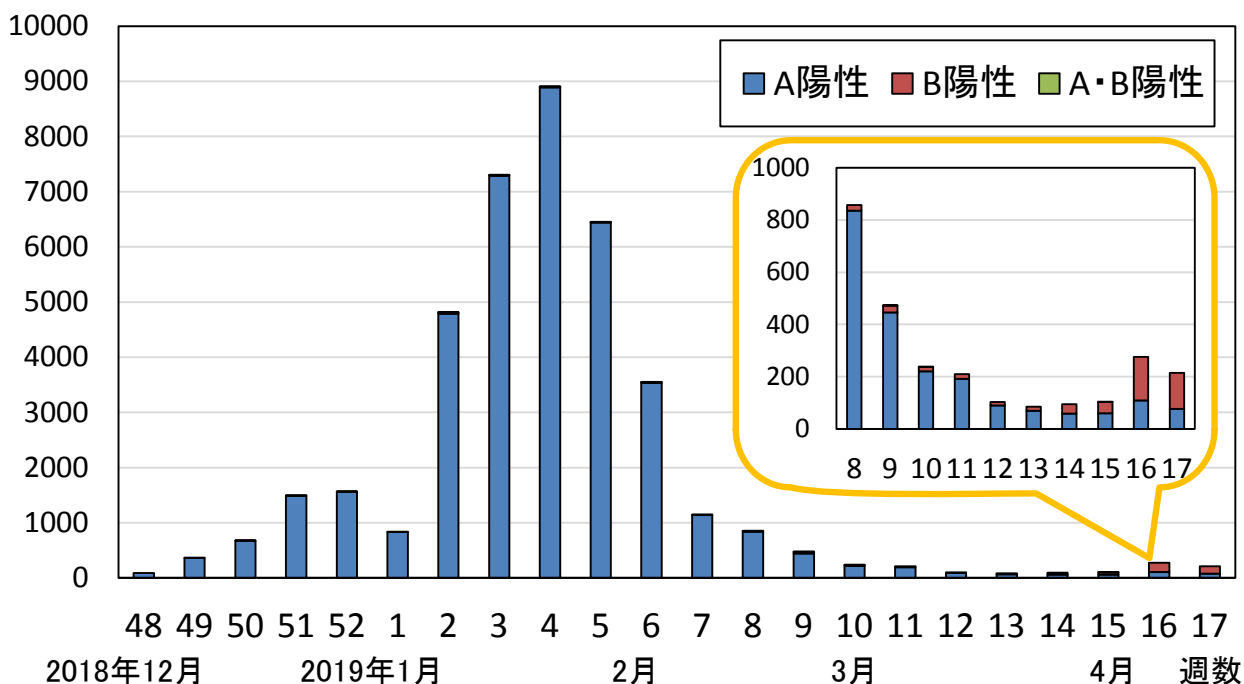


**4 市内学級閉鎖等状況:**学級閉鎖等は、第 12 週(3 月 18 日～24 日)以降は報告がありませんでしたが、第 16 週に 4 施設(小学校 3 施設、中学校 1 施設)、患者数 52 人の報告があり、第 17 週は 5 施設(小学校 4 施設、その他 1 施設)、患者数 113 人の報告がありました。



**5 迅速キット結果:**今シーズンは A 型が 99%以上を占めて推移してきましたが、第 8 週頃より B 型の占める割合が増加し始め、第 16 週に A 型 39.5%<sup>※4</sup>、B 型 60.5%<sup>※4</sup> となり、A 型と B 型の割合が逆転し、第 17 週も A 型 35.5%、B 型 64.5%と、B 型が占める割合がさらに高くなっています。

横浜市の患者定点医療機関における  
迅速診断用キットによる型別の報告数(人)



※参考リンク 近隣自治体の流行状況 ○[神奈川県](#) ○[川崎市](#) ○[東京都](#)  
 全国の流行状況 ○[国立感染症研究所](#)

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237  
 横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2445